

アニース (前編)



烏賊松



みなさん
こんにちは
私
まりかつて
います

今年高校生に
なったばかりの
女の子です

私には5歳上と
2歳上の二人の
兄がいます

私たち兄妹は
仲はいいんです
けど

一つ
困った事が
あります

兄たちが
お風呂上がり
いつも全裸で
家の中をウロウロ
するので

私はいつも
目のやり場に
困ってるんです

私は出来るだけ
平静を装って
ますが

エッチな事にも
興味津々な
年頃

ついつい目が
兄たちの
黒々とした
股間へ…

そして夜
ベッドに入ると
兄たちのアレを
思い出しながら

指がアソコへ
いつてしまうん
です

兄のアレを想い
ながらそんな事
しちゃいけないのは
分かってます

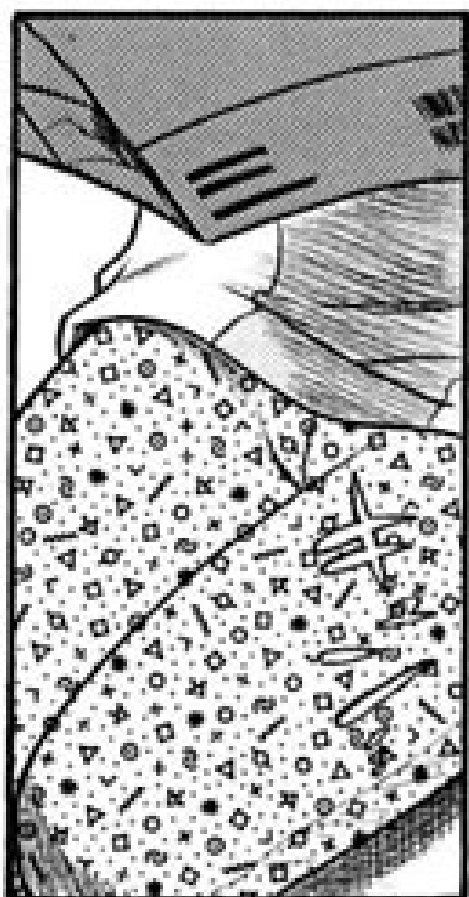
でもそう思えば
思うほど
ますます興奮して
結局毎晩一人エッチ
をしてたんです

そしてこれは

両親が泊まりがけで
親戚の結婚式へ
出かけた夜の
お話です





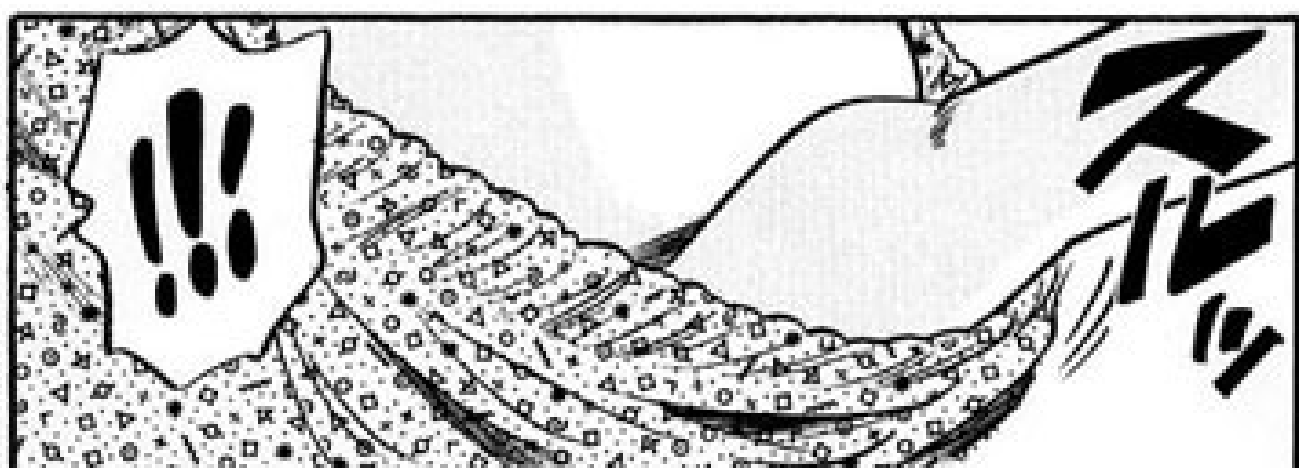
















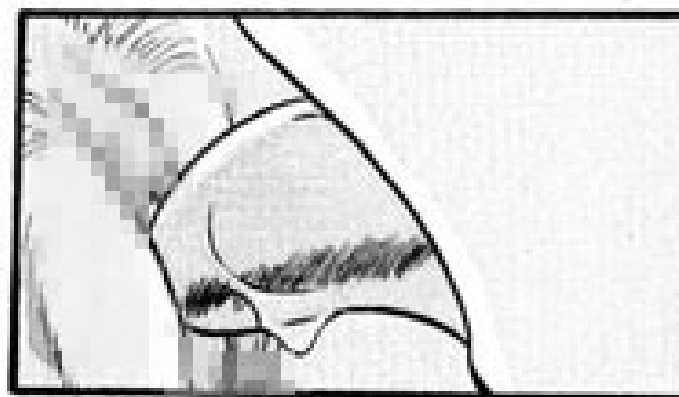
これがまりかのおま○こかあ

あんまり毛は生えてないんだなあ

この時はまだ兄たちが悪ふざけをしているんだと思っていました

でもそれが甘い考えだったという事が

すぐにわかりました



実の兄妹なんだしまさかエッチまではしないだろうって……



アニース (後編)

烏賊松



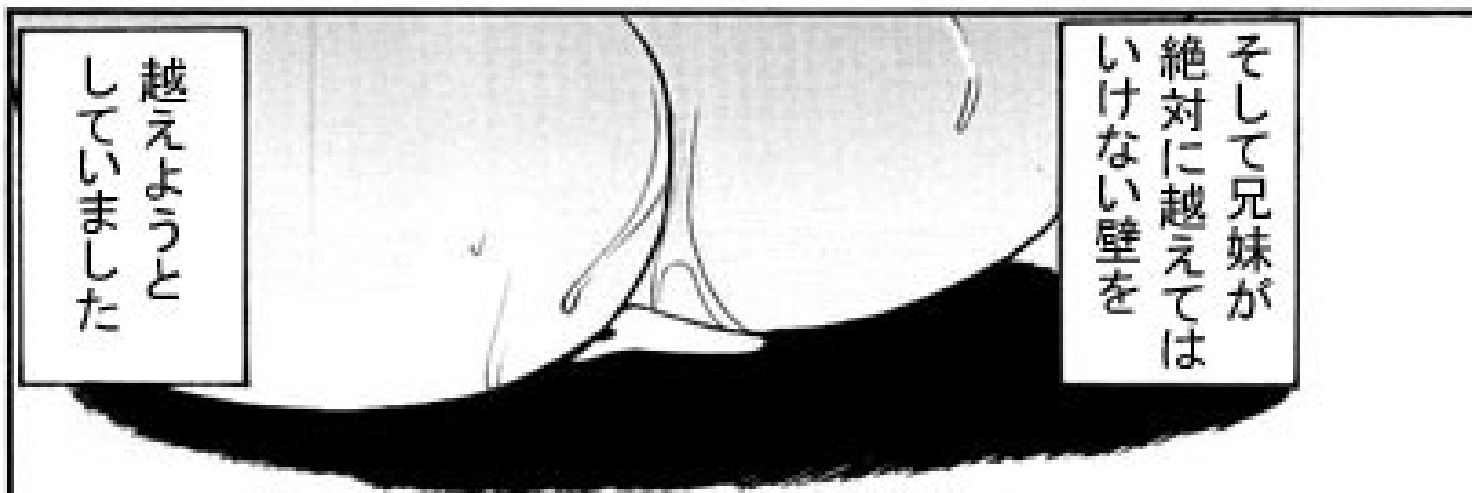
両親が泊まりがけで
出掛けた夜

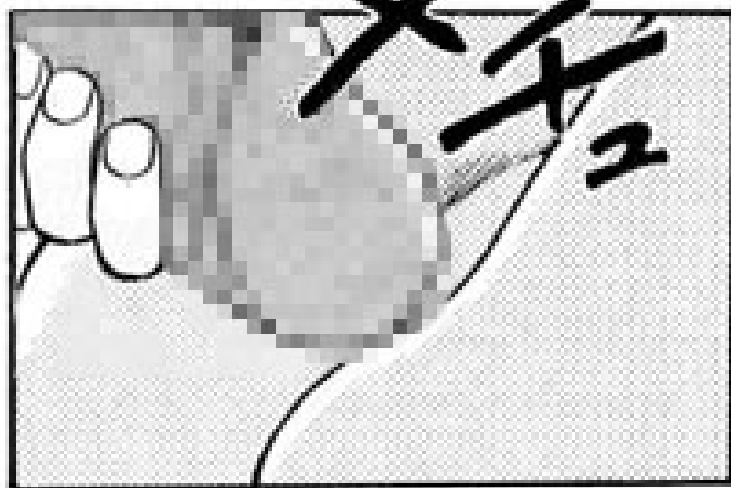
全裸の
二人の兄たちが
私に襲いかかって
きました



そして兄妹が
絶対に越えては
いけない壁を

越えようと
していました





痛っ…

グッ
グッ
グッ

だ…メだよ
ヒデ兄ちゃん…ん

んんっ

ズン
ズン
ズン

いやあ!!

お兄ちゃんのが
入っちゃっつっっ

うう…



すげえ…
キツキツだ
……



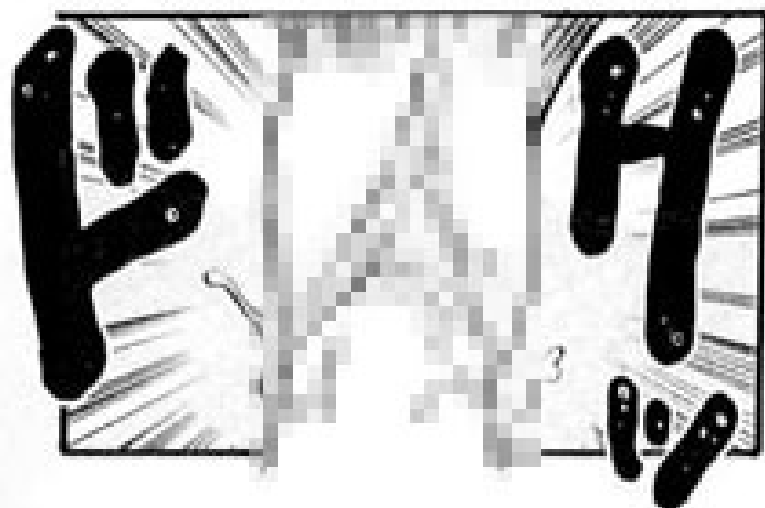
んっ
……

裂けるような
痛みと同時に
ヒデ兄ちゃん
のアレが私の中
に入ってきて

私のバージンは
無残に奪われ
ました

そのあまりの
痛さに
私は声も出せず

ヒデ兄ちゃんの腕に
しがみついているコトしか
できませんでした





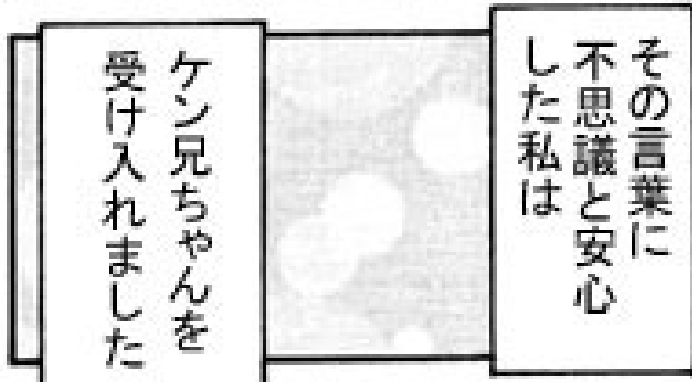




絶対中には
出さない――



な？



その言葉に
不思議と安心
した私は

ケン兄ちゃんを
受け入れました



ケン兄ちゃんは
スムーズに
入ってきました

ヒデ兄ちゃんに
中出しされた
精液と私の血の
お陰で



それでも
ケン兄ちゃんが
腰を使うと
ズキズキと
痛みが走り

それに堪える
だけで快感なんて
全くありません
でした





再び身体を求めてきた
兄を拒否しなかったのは



兄たちとの関係を
私も望んでいた
からかもしれません

最初のうちは
ただ痛いだけ
だったのに

ヒデ兄ちゃんが
三回目に入って
きた頃には

私もイッて
しまいました



それから
夜が明けるまで
いろんな体位で
セックスしまくり
ました



もう頭の中が
真っ白になって
中出しをしない
という約束も
どうでも良くなり

兄たちに
何度も
中出しされて
しまいました

全てが終わった時
自分のした事を
思い出して怖くなり
泣いてしまいました

元々兄たちの身体に
私が興味を持っていた
のが事の始まり……

だから兄たちを
責める気には
なれませんでした

でも

その後も
兄たちとの
関係は続いて
います

一度味わってしまった
兄妹同士の快感
……………



とても
やめられそうに
ありません